

開かれた社会の

規範論

〈開かれた社会〉という標語には誰もが賛成する。しかし、その意味を我々は本当にわかつているだろうか。時間と空間を超越する普遍的価値が存在すれば、世界は閉ざされたシステムをなす。近代は神を殺し、社会を未来に開いた。社会に生まれる逸脱の正否を、社会に内在する論理では決定できない。社会を破壊する異質な論理が社会の真つ直中から生まれてくる。外部から異文化がもたらされなくとも、社会が自ら異質性を産出する。これが〈開かれた社会〉である。

〈開かれた社会〉は人間の意志から遊離し、自律運動する。主体性・自律性・学習可能性・未来予測可能性を峻別し、規範論の役割について考えたい。

講師

小坂井 敏晶 氏
(パリ第8大学)

日時：2015年7月25日(土) 15時～

場所：明治大学駿河台キャンパス
リバティータワー11階 1115教室